

山城ガールむつみの出陣のススメ「いざ、金谷城へ！の巻」

金谷城

JR浜金谷駅もフェリー金谷港も

近い！なにげに駅チカ物件！

金谷城は里見実堯の本拠となったお城です。

地質は鋸山と同様に険峻な岩山で、城山を眺めるといかに堅固な山城だったか簡単に想像できます。

出土遺物は時期的には16世紀中ごろから後半が中心で、それらは天文の内訌以降の正木氏のものと考えられています。

天文2年（1533年）に里見義豊が叔父実堯を金谷城から稲村城に呼び出して誅殺しました。実堯の子、義堯は造海城に籠城した後、義豊を討ちます。金谷城は里見氏のお家騒動の主役ともいえる実堯、義堯父子が本拠とするほどの城だったのです。その後の金谷城の詳細は不明ですが、里見氏や内房正木氏の城として使われたのでしょう。

金谷城は文献にもたびたび登場します。初見は天文22年（1553年）の妙本寺文書です。里見氏に庇護されていた妙本寺の日我が金谷城に經典を持って避難するなど、戦乱時には避難場所として使われたようです。この文書から、この時は里見氏の城だったことがわかります。

さらに、弘治元年（1555年）には北条氏康が南奥白河氏に金谷城を奪ったことを伝える文書を発行しており、金谷城の重要性が垣間見えます。

勝山城がこの地域の拠点となると、金谷城はその支城として機能したと考えられます。



黄色の丸が金谷城。矢印が金谷港。フェリーから見た景色★
久里浜-金谷は、たった40分。片道なんとたったの800円！
ぜひ海上から、三浦半島と房総半島を眺めて、海賊気分を味わってくださいね。

内房正木氏って？

三浦氏に繋がる一族であるとされる正木氏。

その正木氏は里見氏に仕え、房総半島で勢力を広げていきました。小田喜（大多喜）や勝浦を拠点として、一族が房総半島内に分布しました。東京湾に面した内房にも正木氏の拠点が置かれ、その一族は内房正木氏と呼ばれました。

内房正木氏は政治的な情勢によっては小田原北条氏に仕えたりしながら、戦国の世を生き残りました。



二の郭・虎口 赤丸の箇所から柱穴が検出されました。岩盤を整形した四脚門があったとも考えられています。遺構は地下に保存されています。



金谷から見た三浦半島！三浦半島から見る房総半島より房総半島から見る三浦半島の方が大きく見える気がします。光の問題でしょうか？富士山も大きく見えます。



金谷城は会員制リゾートTJK金谷城の敷地内のため、非公開ですが、ご厚意で日にち限定公開が検討されています。富津市のHPに掲載される予定です。



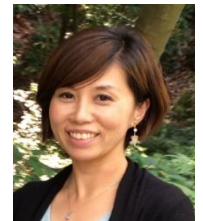
鋸山美術館

房州石を使ったとてもオシャレな外観★敷地内の蔵も見学できます。蔵には鋸山の採石の歴史がわかる資料もありますよ。



鋸山で採石された房州石が使われた町並み

歴×トキ QR



【山城ガールむつみ】

山城イベントや歴史イベントを開催。歴史講師、歴史&山城ナビゲーター SNSは「山城ガールむつみ」で検索！
HPは<https://www.rekitoki.com/>